令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【上大久保中】

① 今年度の課題と学力向上策

	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 学習習慣や基礎的な知識が定着していない生徒の割合が大きい。自分の課題を把握し、自己調整学習をすることが難しい。 ＜指導上の課題＞ 学校全体として基礎基本に反復して取り組む授業モデルを確立できていない。	⇒	・ICTを用いて、5教科の複数の種類の課題から、生徒それぞれが自分の習熟度に応じた課題を選び自分のペースで学習する時間を設ける。【通年・各学年週1回】 ・学習習慣と基礎・基本の定着のために、各教科で小テストや基礎・基本の振り返りを定期的に実施する機会を設ける。【通年・不定期】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 基礎基本が定着していないため発展的な問題に取り組めなかったり、形式的なものになってしまったりしている ＜指導上の課題＞ 習熟度に差がある生徒に対する指導の方法が確立していない。	⇒	・校内研修や校内公開授業を通して、毎回の授業で、前時の振り返り、個人の目標設定、1時間の振り返りを行う統一授業モデルを学校全体、全教科で実施できるようにする。【通年・毎授業】 ・個に応じた目標を設定し、話し合い活動などを通して生徒が意欲的に取り組めるような授業を展開する。【通年・毎授業】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率において、全国平均を上回った。数学は9問中7問の平均正答率において、全国平均を下回った。とりわけ、「図形」、「関数」の領域に課題が見られる。また、無回答率も9問中7問で全国平均を上回った。理科は10問中8問の平均正答率で全国平均を上回ったが、「生命」の領域の正答率が低く、課題があると言える。
思考・判断・表現	国語では、平均正答率においてすべての問題で全国平均を上回った。数学では6問中4問において全国平均を下回り、とくに「図形」の領域の正答率が低く、課題である。理科では全ての問題の平均正答率において全国平均を上回った。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・ICTを用いた習熟度別の取組が定着してきている。 ・各教科において、小テストや振り返りを定期的、反復的に行うことで、基礎基本の定着へ向けての取組が増えてきている。	変更なし
思考・判断・表現	B	・校内研修内で、チェックシートや普段の授業の振り返りを設けることができた。前時の振り返り、個人の目標設定、1時間の振り返りを行う統一授業モデルが少しずつ定着してきている。 ・話し合い活動を取り入れている教科は多いが、個に応じた目標設定という点にまだ課題がある。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	学校平均正答率は中1理科を除いて全ての教科で市平均正答率を下回った。とりわけ、国語と社会では知識・技能の問題の市平均との差が、思考・判断・表現の問題のそれと比べて、顕著に大きかった。さらに細かく見ると、国語では学年問わず（3）我が国の言語文化に関する事項の問題、数学では図形、関数、社会では日本の様々な地域（中2のみ）の問題のおける市平均正答率の差が特に大きく、課題である。また、国語、数学の上記の項目の問題では無回答率の高さも課題となった。 しかしながら、中2の同一集団経年比較では、上記の課題で挙げた項目を含める全ての教科の偏差値が昨年度よりは上昇しており、改善傾向にあると言える。
思考・判断・表現	中1, 中2ともに全ての教科で市平均正答率を下回った。とくに、数学と理科では思考・判断・表現の問題の市平均との差が、知識・技能の問題のそれと比べて大きかった。細かく見ると、国語の読むこと（中2のみ）、理科の「生命」を柱とする領域問題（中2のみ）において課題が見られた。 中2の同一集団経年比較では理科を除いた3教科で偏差値は上昇しており、昨年度よりは改善が見られた。

⑤ 学力向上策の実施状況

	評価（※）	
知識・技能	B	・年間を通じて、ICTを用いた習熟度別学習を実施することができた。しかし、生徒によって実施状況に差が見られたため、次年度以降は方法を変更していきながら継続したい。教員に対するアンケートでも基礎的な力・学習習慣・自分にあった方法の定着に関して肯定的な意見はそれぞれ、60%,33%, 53%に止まった。 ・各教科、小テストなどを通して基礎・基本の定着の時間を増やすことができた。「学びの指標」アンケートでも基礎的な授業スキルの全教員の平均値で、3.47ptであり、R6年市平均、校内平均をいずれも上回った。
思考・判断・表現	B	・校内研修や校内公開授業を通して、毎回の授業で、統一授業モデルを学校全体、全教科で実施することができた。全教員が、1回以上の公開授業を実施し、それに対して、統一授業モデルの観点からフィードバックを行うことで相互に授業改善を促すことができた。また、全教員に対するアンケートでは統一授業モデルの実施について全員の肯定的回答が得られた。ただ、個人の目標設定や話し合い活動に関してはまだ一部の教科、教員で課題が見られるので、次年度の目標としたい。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と学力向上策

知識・技能	・基礎基本に重きをおく授業モデルはかなり定着してきたため、次年度も継続し反復することで、基礎・基本の定着を図りたい。 ・今年度、習慣づけることのできた習熟度別学習をより一層深めるために、方法の改善を行う。今年度は進捗状況の把握と、生徒の実施計画の管理がうまくできなかったので、次年度は生徒が見通しをもって取り組むことができるような方策を立てたい。
思考・判断・表現	・今年度は統一授業モデルを確立することができたので、次年度以降はそれを土台に、話し合い活動などを通して、思考・判断・表現の力を養う協働的な学びを定着させたい。具体的には、個の意見を協働的な学びに活かすことで主体的な学習態度をを育みたい。